

# 生物暦 Vol.10

～いきものこよみ～

国立環境研究所 生物季節観測研究チーム 2024年11月27日発行

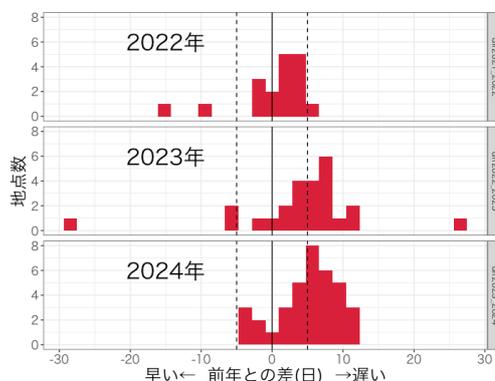
## 1.ごあいさつ

調査員の皆様、いつも生物季節モニタリングにご協力いただきありがとうございます。秋も駆け足で過ぎようとしているこの頃、ちょっと、夏を振り返ってみましょう。

## 2.ヒガンバナ（彼岸花）の開花が遅くなっている？

今年の夏は全国的にも気温が高く、連日の猛暑日でいつにもまして夏が長く感じられた方は多かったのではないのでしょうか。そのような中、市民調査員の皆様から「ヒガンバナの開花がいつもより遅い」というメッセージを頂きました。生物季節モニタリングでご報告頂いたデータから、開花時期の変化が見えるのでしょうか？ヒガンバナの名前は秋の彼岸の時期に咲く花であることに由来します。秋の彼岸の時期は、秋分の日をはさんで前後3日間、合計7日の期間です。

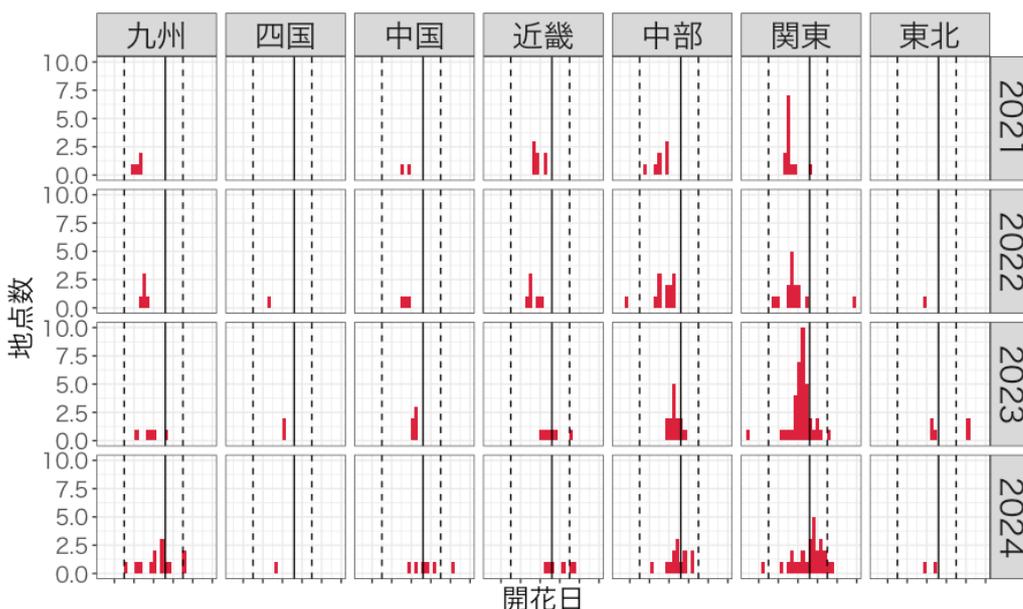
そこで、2年以上続けて同じ場所で観測しているデータから、ヒガンバナの「前の年との開花日の差」をグラフにしてみました（右図）。点線は5日の差を示していますが、2023、2024年と5日以上遅く開花した観測場所が増えてきています。



それでは開花時期はどのようにでしょうか？下の図は地方別に4年間の開花日の報告数を表したグラフです。黒の太い線は秋分の日、左側の点線は9月1日、右側の点線は10月1日を示しています。地方によって違いはありますが、秋分の日よりも遅い開花日がだんだん増えていっているように見えます。2024年は9月末頃の開花報告

もあり、彼岸の時期にヒガンバナが間に合っていない場所もあったようです。

ヒガンバナは、葉よりも先に花茎を地中から出して花を咲かせます。花芽の形成は土の中で行われており、これには地中の温度が関係しています。適温は20℃くらいで、これより



暑くても寒くても花芽の形成・発達が遅くなり、開花も遅れるとのことです。もちろん日当たりによっても地温は変わりますが、気温の上昇が地面の下にまで影響を与えていることを示しているといえるかもしれません。

活動へのご意見・お問い合わせの窓口  
E-mail: [ccca\\_phenology@nies.go.jp](mailto:ccca_phenology@nies.go.jp)  
Tel: 0298-50-2375 担当：松島・西廣